

TOCHU SDGs REPORT

2030年に向けた取り組み

2022年度版



いつも砂夢 **THING NEXT "THE NEW!!"**

Always dreaming of sand to something next "the new!!"



SDGs 宣言



当社がSDGsの取り組みを宣言してから、早くも1年が経過いたしました。私が出席する会議体においても「ペーパーレス」や「省エネへの取り組み」の報告が増加し、社内においてSDGsが周知されてきました。SDGsは2030年までに持続可能な世界を築き上げる目標です。目標達成も重要ですが、私は2030年までに従業員一人一人が当社のKPI目標を理解し、自ら行動に移せるような、自然な体制になっていることも、同時に望んでいます。

つまりSDGsには、人材育成の役割もあると感じております。現状抱えている様々な問題を見える化し、メンバーで共有し、協力しながら解決する。その中で我々経営層の役割は、正しい情報を従業員に与え、自分なりの「気づき」をたくさん見つけて行動に移せる環境を整えることと捉えております。

2022年度のSDGsの取り組みは、体制づくりや従業員への意識付けなどの準備期間であることと同時に、中期経営計画のキックオフの年でもあります。

私たちトウチュウは、従来の「珪砂」「鋳材」「鋳造」事業及び、新規の事業活動を通じてSDGs達成に取り組み、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

株式会社トウチュウ 代表取締役社長 森田剛司

社訓

責任感

誠実

一致協力

経営理念

「品質至上で冠たる企業の創造」

常に自然環境との調和を保ち価値ある品を求めてこそ、

- ・ お客様の満足が得られ
- ・ 責任感と誠実さをもって、一致協力すれば、信頼され
- ・ みんなの幸せと企業の繁栄が得られる。

品質方針

源流からの品質保証に徹し、価値のある製品をタイムリーに提供することにより顧客の信頼に応える

- ①お客様は何に困っておられるのか、そのニーズを常に情報収集し、改善に繋げます
- ②お客様からのクレームには、何よりも最優先し、迅速に対応します
- ③クレームや不良品が発生しないように、品質レベルの向上に努めます
- ④協力会社を含めて、改善活動を行います
- ⑤関連する法規制を遵守することにより社会的責任を果たします

環境方針

当社が事業活動を行うに当たり、環境に関する規則、条例等の遵守と汚染の予防に努めます。又、事前活動及び当社が提供する商品に係わる環境影響を低減するため、環境目的・目標を設定し、計画的な実践と見直しにより環境マネジメントシステムと下記事項の継続的改善を推進します。

- ①環境負荷となる廃棄物の低減
 - ②生産の効率化によるエネルギーの低減
 - ③生産ロス追求による資源の有効活用
 - ④環境に配慮した商品の提供
 - ⑤工場立地条件を考慮した環境リスクの低減
- 尚、全従業員の環境意識を向上させるため、教育、啓蒙活動を積極的に推進します。



めざす姿

CO₂排出削減

2030年までにCO₂排出量▲30%（2018年比）を目指すことを目標とし、2024年までには具体的な削減施策を立案すべく、『排出量の見える化』と『再生可能エネルギー発電 電力活用』に向けた社内体制整備に主眼を置き取り組みを開始します。

活用資源

CO₂排出量削減推進委員会

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
7.2	再生可能エネルギーにて 発電された電力活用推進	再生可能エネルギー電力活用に 向けた社内体制の整備	100%完了	～2022年
9.4	生産における 省エネ活動の推進	電気/ガス設備の 使用量見える化整備	100%完了	～2024年
12.5	省エネ知識の啓蒙	SBTを含めたCO ₂ 削減勉強会の 年一回開催	100%完了	～2024年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

- 再生可能エネルギー電力活用に向けた社内体制の整備 **※完了（投資とCN活動の検証組織 設定）**
現在、経営企画室と定期的なミーティングを開始。オンサイトPPAなどの費用対効果検証等の取り組みを開始
上記の取り組みは大きな投資を伴うため、年二回実施のCO₂排出量削減推進委員会にて計画立案し経営委員会にて決定し施行する体制を整備しました。
- 電気/ガス設備の使用量見える化整備 **※野間地区 3事業所 2023年度中に完了見込み**
中部電力ミライズの消費電力見える化システムを、野間地区から運用開始。アルミ事業所/野間事業所/製鋼事業所の3事業所については、2023年度中に完了見込みです。
- CO₂削減勉強会の年一回開催 **※2022年度 未達 2023年度上期に実施済**
2023年7月 中部電力ミライズ 消費電力見える化システムの取扱い説明及び、見える化から合理化活動に向けた事例研究の内容で勉強会を開催いたしました。

Pick up!

CO₂排出量 削減に向けた設備投資 開始!!

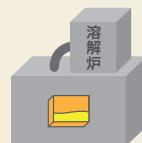
- グループ会社(株)富士金属高効率溶解炉への更新計画 **※2023年度実施**



①燃料転換



②高効率化



現在、重油を燃料にアルミ素材を溶解しているが、
①燃料転換（重油 ⇒ LNG）
②高効率溶解炉へ更新
を実施することで、

年間989t CO₂削減予定

- トウチュウ製鋼事業所高効率溶解炉への更新計画
1号電気溶解炉の更新を行うことで、 **※2023年度実施**

年間約75t CO₂削減予定

- トウチュウアルミ事業所高効率溶解炉への更新計画
溶解炉1号の更新を行うことで、 **※2023年度 実施済**

年間約85t CO₂削減予定

2023年度は上記3つの大きな設備更新により、**1,149t CO₂削減**を見込んでいます。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



活用資源

経営サービスセンター

めざす姿

資源利用効率の向上

紙の製造には、水だけでなく多くのエネルギーを消費し自然環境にも影響を及ぼします。また、社用車に対してもクリーン技術を取り入れたFCEV、PHV、HV、EV車の導入を推進、自然環境保全にも取り組みます。

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
9.4	社用車へのFCEV、PHV、HV、EV車の導入推進	FCEV、PHV、HV、EV車への乗換	100%達成	～2030年
	ペーパーレス化の推進 ※2020年比 50%削減	IT化による紙資料の削減	—	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2022年度 社用車のFCEV、PHV、HV、EV等の導入状況について

乗用車両 **44.7%**
(前回比+1.5P)

産業用車両 **16.7%**
(前回比+2.2P)

■ペーパーレス化の進捗状況について

2022年度 **▲5.3%**
(前回比▲0.6P)

Pick up!

社用車のFCEV、PHV、HV、EV化

合理化だけでなく、環境にやさしい車両の導入は、安全面への意識も芽生え、セーフティLEDレーザーの導入や、タイヤへのマーク設置などで速度やセーフティゾーンの見える化への対応まで発展しました。従業員の合理化⇒安全へ気づきかけにもなっています。

年間ランニングコスト面
▲672千円の削減

※1日5時間×240日ガソリン160円/l
電気25円/1h(時間3.2KW消費にて換算)

年間CO₂排出量削減面
▲9tの削減

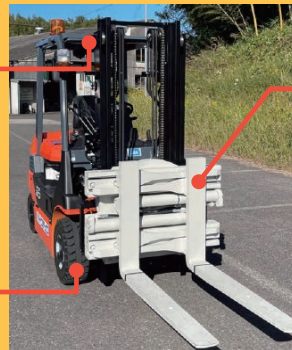
※ガソリンの原単位2.322tCO₂/kl
電気の原単位0.000433tCO₂/kwhを使用して換算



セーフティ
LEDレーザー



タイヤへのマーク



ドラム反転
アタッチメント

ペーパーレス化

ペーパーレス化については、2020年比で▲5.3%に進展(2021年▲0.6%)。

各事業部において、現状分析 ⇒ 課題抽出 ⇒ 具体的改善策 の流れができてきているとの報告があり、特に総務人事部、経理財務部、経営企画室等がある本社部門においては、2020年比で▲24.9%と達成率50%に迫る勢いで改善してきています。

2023年度においては、請求書や領収書発行のためのシステム更新を検討しており、更なる進展を目指してまいります。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



12 つくる責任
つかう責任



活用資源

技術開発部

めざす姿

環境に配慮した
新しい製品開発

トウチュウは、鋳物用珪砂事業に取り組み『再生砂』の開発に成功。今後についても『いつも砂夢 THING NEXT THE NEW』を掲げ、環境に配慮した製品開発を目指します。

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
9.4	環境に配慮した 新しい製品開発	新しい製品開発	5点開発	～2030年
12.5				

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■環境に配慮した新しい製品開発

■現在進行中のアイテム

1点開発達成

※2030年までに5点開発目標

2点開発中

※2030年までに5点開発目標

Pick up!

新しい製品開発の検証開始 クラピア用 珪砂

クラピアは芝生に代わるグラウンドカバー、エコロジ的な雑草対策として注目されています。

トウチュウは工場緑化にも繋がる可能性がある、クラピアの駐車場へ植栽実験を2023年度に計画しています。

鋳造時に廃棄物として、使用済の砂型が発生します。この砂型を粉砕し廃砂となり、廃砂を焙焼処理し、トウチュウでは再生砂として、お客さまへ販売を行っています。今回、新しい製品開発の検証として、弊社の廃砂をクラピアを活用した工場緑化にも該当する、駐車場の土壌に活用できないか、実験を計画し取り組んでまいります。

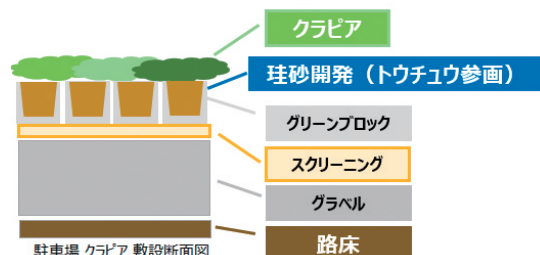


クラピアのポット



駐車場のイメージ図

■トウチュウのクラピアプロジェクトへの参画は、下図のクラピアを植栽するための土壌開発です。肥料等を長く留める役割も付与し今後検証します。



12 つくる責任
つかう責任



めざす姿

環境負荷低減製品の拡販

トウチュウの主力事業の一つ『RCS』事業。作業環境負荷低減のRCSを拡販し作業環境だけでなく、廃棄物の低減、珪砂の再生利用にもつながり、人体影響、省資源化、廃棄物の削減に貢献します。

活用資源

正:営業本部
副:RCS事業部

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
12.4	環境負荷低減 製品の拡販	速乾性水性塗型剤の拡販	360トン切替	～2024年
12.5		環境負荷低減樹脂の拡販	360トン切替	～2024年
		作業環境対策RCSの拡販	5件	～2024年

※RCSとは、レジコンコーテッドサンドの略称です。

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■速乾性水性塗型剤の拡販

1.43t

※2024年まで 目標360t拡販

■環境負荷低減樹脂の拡販

商談中

※2024年まで 目標360t拡販

■高易崩壊RCSの拡販

1件獲得

※2024年まで 目標5件獲得

Pick up!

環境負荷低減製品の拡販

目標に対し進捗がもっとも厳しいのが、『環境に配慮した製品』となっています。『環境に配慮した製品』は、普段使用しているアイテムと比較するとコストアップとなります。ユーザーからの反応は、『環境に配慮する重要性は理解している』とコメントしながら、『コストアップにはなかなか踏ん切りがつかない』といった声をいただくのが現状です。2023年度の活動としては、サプライチェーン全体での取り組みにも関連することから、お客様とのコミュニケーションを大切にし、課題達成に向けた取り組みを進めてまいります。



サプライチェーン全体での、環境負荷低減(省エネ含め)に向けた意識改革が必要と感じ、コミュニケーションを高めてまいります

5 ジェンダー平等を
実現しよう



めざす姿

働きたいと思っている女性の 雇用機会を増やす

男性中心の鋳物／珪砂事業という枠組みを壊し、『女性の特性を生かした働き甲斐ある製造業を目指す』ことを掲げ、女性の雇用機会の創出、女性管理職の登用を目指したキャリアアップの仕組み構築。女性が働きやすい社内環境の整備を行い、誰もが平等に活躍できる場の提供に取り組みます。

活用資源

総務人事部

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
5.1 5.4	働きたいと思っている 女性の雇用機会を増やす ※社内女性社員比率 20%	保育、介護に対する 社内制度の充実	—	～2030年
		女性の特性を生かした 業務環境の整備	—	～2030年
5.1 5.5	女性社員に対する 適正な評価を推進する ※管理職比率 10%	性別に左右されない 人事評価の仕組み整備	—	～2030年
		女性の特性に合った キャリアアッププランの構築	—	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2022年度

トウチュウにおける女性社員比率

14.3%

※2021年より 1.8P増加

■2022年度

トウチュウにおける女性管理職比率

6.0%

※2021年より0.4P増加

Pick up!

働きたいと思っている女性の雇用機会を増やす

トウチュウでは、『女性の特性を生かした働き甲斐ある製造業を目指す』ことを掲げ、女性管理職の登用を目指したキャリアアップの仕組み構築。女性が働きやすい社内環境の整備について、取り組みを開始しております。2022年度は、昨年に引き続き女性ステップアップ研修を対象者43名に対し開催いたしました。

研修では、仕事に取り組む際、前向きにとらえ行動に繋げる『ポジティブシンキング』の考え方を学び、前向き思考で取り組むことを、ワークにて実践しました。その内容に加え、『2030SDGsゲーム』研修にも取り組み、SDGsがなぜ必要か、またSDGsがトウチュウに浸透することでどう変化するのか?を学びました。

また、これまでの自身のキャリア・目標を見つめ直し、仕事だけでなく生活面でも充実するためにはどうすべきかについても、ディスカッションを行い共有いたしました。引き続き総務人事部では、働きやすい環境の実現のため、社内制度を見直し、改訂を進めてまいります。



お詫び: 2021年度レポートにおいて、『女性管理職比率を 7.6%』と報告いたしましたが、実際は5.6%の誤りでした。

10 人や国の不平等をなくそう



活用資源

経営サービスセンター

めざす姿

外国人への就業の場創出

自国の情勢悪化等により日本で働きたい、または、日本の技術等のスキルを得たいといった意志を持つ外国人に対し、就業の場を創出し、トウチュウにおける珪砂の知識やアルミを素材とする鋳物での部品製造、鉄やステンレスを原料とする鋳造品の技術を得る環境を整えていきます。

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
10.2	採用	外国人の採用(新卒含む)	10名採用	～2030年
	外国人に対する職業体験の場の提供(新卒含む)	就業体験の場 提供数	10名受入	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2022年度 外国人労働者雇用の推移

■就業体験の場 提供数

2名採用

15名へ提供

Pick up!

外国人への就業の場創出

2022年度は、15名の方に対し就業体験の場を提供し、2名の外国人労働者雇用につながりました。

2名採用の内容としては、現場採用 男性1名、通訳採用 女性1名です。

製鋼事業所においては、多くのブラジル国籍の方が働いています。今回の現場採用の男性社員についても製鋼事業所の製品の仕上げ作業に従事しています。

また、女性採用については、アルミ事業所には多くの外国人実習生が働いており、実習生の皆さんに快適な職場とするため、通訳スタッフとして女性のベトナムの方を採用いたしました。

ベトナム実習生の皆さんが当社で知識習得し、自国に戻ってからも生かせるようにするためには、コミュニケーションが重要です。またベトナム実習生の中には、フットサルを休日に楽しむ方もおり、当社は本年フットサル場の整備にも取り組みました。外国人の方も働きやすい環境にするために、トウチュウは日々進化を続けています。



皆さん、真剣に「14 海の豊かさを守ろう」を念頭において取り組んでいました

事前にベトナム実習生に対しSDGsの研修を受講してもらい今回の清掃に臨みました。



国籍関係なく、皆がフットサルを楽しんでいました

10 人や国の不平等をなくそう



活用資源

経営サービスセンター、
半田特別支援学校、
春日井高等特別支援学校

めざす姿

障がいを持つ方の採用及び 職場体験の場提供

生まれつきや事故等により障がいを持つ方に対し、採用を視野にいたした職業体験の場を提供します。未就業の障がい者の方が、働く場所を提供することで収入を得て生きる術を習得し自立するための一助となることで社会貢献を行います。

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
10.2	採用	障がい者の採用 (パートタイマー含む)	10名採用	～2030年
	障がい者に対し 就業体験の場の提供	就業体験の場 提供数	10名受入	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■障がい者の雇用(パートタイマー含む)

■就業体験の場 提供数

2名採用済

※2018年度から採用のみカウント

提供4件

※2023年上期 1名受入済

Pick up!

半田特別支援学校 2年男子生徒 職場体験受入

新型コロナウイルスによる活動制限解除以降、初となる障がい者職場体験の受入となります。今回エントリーいただいたのは、半田特別支援学校2年の男子生徒です。

今回は6月の受入本番前に、担任の先生と現場見学にみえました。野間事業所 技術課 担当者の説明を真剣に聴いています。実施の受入は2023年6月12日(月)～6月23日(金)の2週間です。緊張のせいか少し硬い印象がありましたが、作業説明を聴くまなざしからはやる気を感じ取ることができました。



男子生徒がトウチュウの職場体験に参加し、その経験が少しでも社会に出るために、役立っていたらと感じております。



野間事業所 技術課にて、
試作用のレジンコーテッドサンドの
試験作業の説明を受ける男子生徒

4 質の高い教育を
みんなに



活用資源

総務人事部、
メンテナンス統括部、
品質保証部

めざす姿

問題解決できる人材育成
QC活動手法の醸成

老朽化設備の修繕や、エネルギー効率を高めた設備の新設等、工場内において発生する様々な課題や問題が発生します。そのため、課題達成、問題解決できる人材を育成するため、QC活動の手法を学ぶ場を構築。その上で設備修繕、新規設備導入に取り組むことができる人材についても同時に育成します。

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
4.4	QC活動の手法の醸成	階層別教育内 QC活動教育の実施(計6回)	100%完了	~2024年
	設備人材の育成 (自主保全士取得)	保全研修センター教育の実施(計18回)	100%完了	~2024年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■ QC活動教育

■ 保全研修センターでの教育実施回数

6回実施/目標6回(年間)

39回実施/目標18回(年間)

Pick up!

自主保全研修センターでの教育実施事例

2022年度 野間地区3事業所の大型設備の消費電力測定について

中部電力ミライズのシステムを導入し、大型設備の消費電力量測定を開始いたしました。大型設備はいくつかの設備の複合機であることから、どの設備に無駄があるかを測定するため、右記のHIOKI製クランプオンパワーロガーを3台購入し、2023年4月19日(水)15:30~取扱説明会の研修を開催いたしました。当社設備保全担当者は今後、具体的な省エネ活動に取り組みます。



中部電力ミライズ 消費電力見える化システムについて

2022年度に、野間・アルミ・製鋼の各事業所へ消費電力見える化のシステム導入を完了いたしました。2023年度は、期初に『システムの取扱い説明』及び『システムから合理化への目途付け』に向けた勉強会を開催し、従業員に対し省エネ活動(合理化)にどう結び付けるか?を教育してまいります。また期末には、何に取り組みどう改善したかを刈り取る予定です。





今後の目標

トウチュウが目指す姿

トウチュウの始まりは、現在の新南愛知カントリークラブ周辺で、珪砂を見つけたことから始まります。

今まで「ただの砂」と思っていたものが、初代社長の「気づき」により、鋳物製品づくりに必要不可欠な『珪砂（野間砂）』の発見に繋がりました。野間砂は、当時の工業製品を鋳造で作るうえで幅広く活用され、自動車メーカー以外で初めてトウチュウが『再生砂』の製造に取り組み、資源小国 日本において、『持続可能』につながる鋳物砂リサイクル事業を構築しました。

その後、国内珪砂だけでは日本の工業が停滞してしまうことをいち早く感じ取り、海外珪砂に注目。国内珪砂、再生砂、海外珪砂をバランスよく用いることで、安定的に珪砂を供給し日本の鋳造業を支えてまいりました。

当社スローガンである「いつも砂夢THING (something) NEXT "THE NEW"」は、新しい商品や新しい可能性を追求したり、新たな事業基盤を作ることを意味しています。ただそれだけに留まることなく新しい気づきや「つながり」、新しい仲間など、これらも含めて「何か新しいもの」を探求することが、大切であると考えています。

そのため、「つながり」や「自分も支点（世界ともつながっており、自分自身も世界に影響を与えることができる）」に気づかせてくれる2030 SDGsゲームを階層別教育に導入し、「自分さえ良ければよい」ではなく、「自分もいろいろな問題に関わっており、自身も影響を与えられる」発想に従業員一人ひとりを変革してまいります。また、障がい者の方、女性の方、外国人の方とともに働き続けられる会社となることにも取り組んでまいります。

『珪砂』につながる、あらゆるモノやコトに目を向け、新しい視点や新しい仲間をつくり、新たな仕組みや世界を創り上げ、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

